

6年 道徳

主題名	友達と理解し合う		
中心内容項目	B-10 主として人との関わりに関すること（友情・信頼） ばかじゃん！		
	令和5年	5月 24日	3時間目
	児童	6年 1組	32名
	授業者	石井 学	

1 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値（教師の価値観）

第5学年及び第6学年「B-10 主として人との関わりに関すること」は、「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」とある。友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合うような、真の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくようにすることが求められる。

低学年では、身近にいる友達と一緒に仲良く活動することの楽しさ、助け合うことの大切さ、中学年では、友達のよさを発見することで友達のことを理解し、友達とのよりよい関係の在り方について学習してきている。

高学年段階では、友達同士の相互の信頼の下に、お互いに高め合うことのできるような「真の友情」について目を向けさせ、よりよい友達関係を築いていくために大切なことはなにか考えさせたい。

(2) 児童の実態（児童観）

最高学年となり、友達と協力する機会も増え、授業時間のみならず、休み時間等にも友達と協力しながら活動を進める姿が見られる。

一方で、同じクラスの仲間でも、人によって態度が異なる児童も見られる。また、仲間外れにされたくないという思いから、友達にいやなことを言われても、自分の思いや意見を素直に表現することができない児童も見られる。また、自分の何気ない言葉や行動が友達を傷つけているということに気が付かず、いつの間にか友達との関係が悪くなってしまったということもあった。

この学習を通じて、友達との関わり方について考え、残りの小学校生活を友達とよりよい関係を築いていきながら過ごそうとする心情を育てたい。

【事前アンケート】

内容	結果
友達のことで悩んだことはありますか。また、自分以外で、友達関係のことで悩んでいる人を見たり聞いたりはありますか。	・ある(47%) ・ない(53%)
「ある」と答えた人は、どんな悩みでしたか。また、友達はどんなことで悩んでいましたか。	・みんなに合わせないとけない ・本当は自分のことが嫌いなのかも ・陰で悪口を言われてるかも ・「けんかをしてしまった」と相談された ・なぜ無視されるのかが分からなくて ・会話についていけない
友情とは何ですか	・助け合いができること ・相手の悪いところを言える ・何でも相談したり話せたりできる ・相手の気持ちを理解できること ・悩みを聞いてくれて、いつでもアドバイスしてくれること ・信じ合える

(3) 教材への思い（教材観）

「ばかじゃん！」は、魚住直子『Two Trains』（学研教育出版、2007年）の一部である。主人公の恵理菜は、転入先の学校で仲良くなった友達、きのちゃんから突然「ばかじゃん！」と言われたことがきっかけで、「自分だけが嫌われているのではないかと」悩むようになる。

ある日、以前の学校で仲たがいをしてしまったかおりに、思い切って声をかけたところ、実はお互いの誤解だったことが判明する。そのことをきっかけに、次の日、恵理菜はきのちゃんに話しかけ、今回は誤解だったことが分かり仲直りすることができるという内容である。

本学級でも、同じように友達関係で悩んでいる児童の実態がある。主人公たちに共感しながら、よりよい友達関係を築いていくために大切なことについて考えることのできる教材である。

2 総合単元ユニットとの関係

最高学年として、自分の役割を理解し、周りと協力しながら行動できるよう、1学期の総合単元ユニットのテーマを「学校のリーダーとしての自覚をもち、自分のできることを考え、自分から行動できる6年生」と設定した。1学期は特に、「相手の立場になって考え行動する」「お互いのよさを知り、認め合う」「思いやりをもって仲間と接し、助け合い、協力し合う」に重点を置き、道徳だけではなく、日常的な指導や行事等にも絡めて意識化を図っていく。

今回の学習を通して、友達との関係について見直し、運動会や児童会活動、たてわり活動などにおいて、助け合い、協力し合いながら、最高学年らしい「お互いを高めあう集団」としての姿を見せてほしいと考えている。

3 研究との関わり

（学びの主体意識をもち、道徳的な問題を自分事として捉え、自己の生き方を考えられるようにする指導の工夫）

子供の「？」を大切に、「課題」を設定する

- ・ ずれから抱く問題意識
- ・ 主題や教材の内容に興味や関心をもたせる



主体意識を抱く発問

- ・ 自分事として捉え、価値の理解に迫る



共通解・納得解を導き出すための発問

- ・ 拡散した考えが収束する発問

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・ 主人公たちの友達との関わり方について話し合う活動を通して、友達とよりよい関係を築いていこうとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応（○発問 ◎中心発問）	教師の支援・評価・研修との関わり ●支援 ◎研修との関わり
価値への方向付け	1 ねらいとする道徳的価値に対する興味・関心を高め、「課題」を設定する ○あなたにとって「友達」とはどんな存在ですか。 ・大切 ・仲がよい ・家族みたいな存在 ・一緒にいて楽しい ・心の友 ・元気にさせてくれる ・心強い ・優しい ・かけがえのない人 ・ライバル ○友達関係のことで悩むのはなぜだろうか。 ・相手の考えていることが分からないから ・自分と相手では、それぞれ性格なども違うから。	◎問題意識をもたせ、学びの主体意識を高める。 ●安心感のある雰囲気づくりを行う。 ◎アンケート結果から、本時の学習に関心をもたせる ●子供たちが安心して自分の考えを話したり、書いたりできるように傾聴することを大切にする。 ◎道徳的価値に関わる子供の「？」を大切に課題を設定する。
	2 教材「ばかじゃん！」を通して、「課題」を追求する ○主人公たちはどんなことで悩んでいましたか。 （恵理菜）きのちゃんに自分だけ「ばかじゃん」と言われ、嫌われているのではないかと 思っている。 （恵理菜）かおりに自分だけ話をさげられた。 （かおり）恵理菜から急に無視された。なぜ無視するのかこわくてきけない。 ○自分が恵理菜だったら、「ばかじゃん」について、きのちゃんに言いますか。 （言う） ・自分の気持ちに気付けてほしいから ・きのちゃんなら聞いてくれる ・言わないと悩んでしまう （言わない） ・関係が崩れるかもしれない、怖い ・言い返されるかも ・聞いてくれない	●読みの視点 「主人公たちの友達関係の悩みに注目して読もう」 ◎道徳的諸価値に関する理解を深める問い「中心発問」
	3 価値について納得解をまとめる ○今日の学習を通してどんなことを感じたり考えたりしましたか。 ・これからも相手のことを思いやるのが大切だと思った。 ・お互いのことを考えながら生活していきたい。 ・運動会本番までもみんな協力し合いながら頑張っていきたい。 ・残りの小学校生活も助け合いながら楽しく過ごしたい。	◎この時間の学びを整理しながら共通解を整理する。
価値の追求・把握	《本時の課題》 友達との関係について考えよう。	
価値の自覚・意欲化	《共通解》 お互いが相手のことを思いやり、理解し合いながら接することが大切。 本音で言い合える関係をつくる。	

(3) 本時の評価について

- ・ 主人公たちの友達との関わり方について話し合う活動を通して、友達とよりよい関係を築いていこうとする心情をもつことができたか。